



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

- P1 豊かな学びの場としてのRSSC
- P2～3 本科ゼミナール紹介
- P4 専攻科ゼミナール紹介
- P5 イベントカレンダー
- P6～7 立教大学 池袋キャンパスマップ
- P8～9 座談会 RSSC生のキャンパスライフ
- P10～11 ネクストステージ
- P11 図書館のここが好き!
- P12 アンケート:本科生に聞きました

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学

編集責任：水上 徹男 編集：ニュースレター31号委員会

発行日：2025年3月6日

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



豊かな学びの場としてのRSSC

立教大学法学部教授 河村 賢治
立教セカンドステージ大学学長補佐



私がRSSCの運営メンバーに加わったのは2018年度。すでに7年度にわたってRSSCと関わりを持ってきました。その間いろいろなことがありましたが、最近の運営面での話題の一つとして、国内外の大学等からRSSC視察の依頼が相次いでいることが挙げられます。

社会人向けの講座自体は様々な大学で展開されているわけですが、RSSCはそれらとは一線を画する存在となっています。リベラルアーツに強みを持つ立教大学ならではのカリキュラムが構築され、修了するには一定の単位修得が必要であり、しかもゼミへの参加と修了論文の提出が必須となっているなどの特徴を有しているからです。アカデミックな雰囲気が溢れるキャンパスでの学びや、学部学生と共に学ぶ異世代共学の機会、フィールドスタディや正課外活動などが充実していることも、RSSCならではの特徴といえます。こうしたRSSC特有の学びの仕組みに国内外から注目が集まっていることが、視察が相次いでいることの理由の一つになっているようです。

私は、RSSCの視察に来られた方に、RSSC同窓会の

ホームページを紹介することがよくあります。それはRSSCのような学びの場の意義を理解してもらうには、RSSCで学ばれた方々の実際の活動の様子を見ていただくのが効果的であると考えているからです。RSSCには様々な興味関心を持った方が集います。生まれた年も、育った地域も、人生経験も、人それぞれです。そうした方たちがある年度に一堂に会し、多様な背景を持つ仲間と出会い、実績ある講師陣のもとで学びを深め、自分らしい真に豊かで充実した人生を築いていく。こうしたことを可能にする場がRSSCであり、それが口先だけの宣伝文句でないことは、RSSCで学ばれた方々が見事に体现されていると思うのです。

RSSCにおける私自身の新たな教育的取り組みとして、2025年度の正規科目化を目指し、「小豆島フィールドスタディ」という講座を2024年度に試験実施しました。受講してくださった方々は皆さん積極的に事前学習・現地実習・事後学習に参加してくださり、学びへの情熱に溢れていました。本講座に限らず私の授業を受けてくださった皆さんとのやり取りの中で、私もまた多くを学び、学問の奥深さ・大切さ・楽しさを再確認することができました。こうした貴重な経験ができたのも、RSSCという豊かな学びの場があったからこそです。

RSSCの創設・運営に関わってくださったすべての方々に思いを馳せつつ、RSSCを次につなげていくために、引き続き力を尽くしたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本科ゼミナール紹介



阿部ゼミ

【私のお気に入り立教時間】授業のスキマ時間の図書館でのDVD

鑑賞（浅野）蔵書豊富で設備の整った図書館での快適時間（石出）

レンガ造りの歴史的建物の前に立つ時（伊藤）早目に登校し図書館のソファでゆったり時間（柏倉）学生の雑踏とレトロモダンの凛とした空気感（菊池）講義の合間に教室を移動する時にすれ違う多くの若者（酒井）静かな空間で蔵書に囲まれ本を広げる図書館での贅沢なひととき（高山）本を探して図書館の書架の間を彷徨うとき（中條）木曜チャペルでの礼拝と聖歌隊の心地よい歌声（永井）学食で聞こえてくる若者の声をBGMにし定食を食べる時（新島）静かな図書館で本を探し、ゆっくり調べものをしている時（見原）

李ゼミ

【RSSC初担当の李旼珍（イミンジン）先生のもとに10人の仲間が集まりました】～RSSCのしあわせな瞬間～

李先生と皆でお喋りして大笑いしている時（A.O）浮世をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く6号館（J.K）講義の後の心地良い疲れで見る夕暮れの校舎（N.S）時を忘れて学びの友と語り合うなにげない時間（T.T）新しい立教の仲間とわいわい語り合う時（T.N）自分の順番が待ち遠しい修論の進捗報告（Y.N）楽しく学ぶ・出会い・親睦を深める!!（S.B）受講生証をタッチし図書館のゲートが開くとき（M.F）キャンパスを歩きながら感じる学びの幸せ（K.M）45年前と同じように正門をくぐり本館を見た時（K.Y）



大野ゼミ

「何でも語れる仲間、導いて下さる先生に感謝!」（加賀）

「やさしくまじめ、勿論お酒♥な淑女紳士ばかり」（内藤）

「ゼミの議論は刺激的で、脳内活性しています」（玉田）「会うごとに 意見が弾む 秋のゼミ」（小宮）「多様な好奇心をワイガヤで深め活気漲るゼミ」（高木）「好奇心とやる気、優しさと遊び心に溢れたゼミです!」（市村）「団結心豊かなゼミ生からの刺激が嬉しいです」（大阿久）「大野先生を囲む楽しく真剣で最高に煌く時&11人」（上田）「久々の大学は新鮮! 素敵なお仲間と出会えて楽しい!」（伊藤）「すべての時が楽しくて、時間が足りない!」（占部）「いつもゼミ生の背中を温かく押してくれる大野先生」（多羅尾）

栗田ゼミ

文化人類学がご専門の栗田先生の芯を食った指摘、様々な経歴を持つメンバーのユニークな視点。共通性、異質性、多様性を感じながら、ときめき、煌めく木曜5限。これって文化人類学? 60代からのクラスメートは永遠なり♡Yako/42年振りに立教入学の夢こんな形で叶った幸せよ（岡田）/論文作成で辛いとき、ゼミの皆さんに助けられました（MKK）/栗田先生の「～でさー」問い掛けで議論白熱（木全）/ダイバーシティとはRSSCを表す言葉です!（斎藤）/多くの若い学生と混じり若返ったと勘違いするRSSC（林本）/入学動機の地域貢献活動の目標が明確になった（MH）/新たな世界への入口! ボツイチの会入会が収穫（JM）/優秀なメンバーと前向きな発言を聞くのが楽しみです（裕）

文化人類学がご専門の栗田先生の芯を食った指摘、様々な経歴を持つメンバーのユニークな視点。共通性、異質性、多様性を感じながら、ときめき、煌めく木曜5限。これって文化人類学? 60代からのクラスメートは永遠なり♡Yako/42年振りに立教入学の夢こんな形で叶った幸せよ（岡田）/論文作成で辛いとき、ゼミの皆さんに助けられました（MKK）/栗田先生の「～でさー」問い掛けで議論白熱（木全）/ダイバーシティとはRSSCを表す言葉です!（斎藤）/多くの若い学生と混じり若返ったと勘違いするRSSC（林本）/入学動機の地域貢献活動の目標が明確になった（MH）/新たな世界への入口! ボツイチの会入会が収穫（JM）/優秀なメンバーと前向きな発言を聞くのが楽しみです（裕）



佐々木ゼミ

【わたしが幸せを感じる瞬間】大切な人たちと一緒に

いて、笑顔や笑い声が絶えない瞬間★目を閉じて、チャペルのパイプオルガンが平和を奏でる時★教室や図書館で家族のような素敵なゼミの仲間と会えた瞬間★むさし野に立ち、師友に教をこう喜び★授業の帰り、伝統ある赤レンガ校舎に柔らかな灯りがともる時★哲学的思考で自分の人生を振り返るといふ新しい道★リアペを出し終わり、ホッとひと息ついでのコーヒータイム★学食で学生に紛れて「立教健保ランチ」を食べている時★昼下がり、独り四丁目のベンチでコーヒーを啜るとき★マニュアルみて初めてのリアクションペーパーが送れた時★

本科ゼミナール紹介



野田ゼミ

入学式、授業、ゼミ、合宿、新たな仲間との出会いなど、心に残る様々なシーンを題材に川柳を詠みました。

花吹雪 校舎背にして セカンドドリーム KK/スーパームーン 関帝廟の灯
仲間と見る TK/仕事辞め 出会った自分 なにびとぞ NK/マーライオン
誰が演っても 意味不明 WI/講義中 聞いているふりして ネット検索
MK/我が子より 若い人と ディスカッション AF/活かすのは 自分次第
金と時 CG/学舎で 新たな楽しみ また増える IS/シニア道 これがわ
たしの 生きる道 ST/ゼミ後の 友との語らい また楽し KF/図書館の ゲート開かず PASMOかよ TI

野呂ゼミ

社会学が専門の野呂芳明教授のもとで、10名のメンバーが、社会問題や地域課題にはじまり歴史や文学などにも及ぶ各自の研究テーマをもち週1回のゼミの時間にディスカッションをおこなっています。真摯な議論をおこない、問題の深い理解と解決策を追求する場となっています。また、自分とは異なるものの見方や考えもつかなかったような指摘もあったりしてスリリングな時間でもあります。さらに自主ゼミの活動では、一般学生との合同ゼミの実施、大学周辺の史跡・名所巡り、池袋駅周辺のサブカルスタディーツアー、六大学野球観戦などのイベントも実施して、見聞を広めゼミ生同士の親睦も深め大変充実なゼミ生活を謳歌しています。



堀ゼミ

【どこへ行くんだ？堀ゼミの10人】11月現在、堀先生から論文の書き方についてのミニ講義を受けながら、互いに切磋琢磨

磨して十人十様の修了論文提出に向けて奮闘中…、でも実態はホームルームみたいな感じだなあ（既にファーストネームかニックネームで呼びあっている。高校生かい！）。ゼミ生LINEは毎日でんこ盛り。講義の情報交換、学食ランチでの待合せ、助け合う方向音痴とIT音痴、励ましのスタンプ合戦、身の上相談（？）も。自主ゼミとして皆で池袋演芸場やトキワ荘マンガミュージアムに行けば、昭和レトロもの探訪活動が始まり、神宮球場に立教の応援に行けば、応援団の追っかけが始まるし…。この先どうなるんだろう？



松山ゼミ

【RSSCでの新たな出会い】旧知の様に未知の事を語れる付き合いやすい貴重な仲間（廣澤）出会い、楽しく語り合う事で、新たな可能性も発見！（石橋）学生と共鳴し学び舎を歩く楽しさ！優しく心豊かな友！（江崎）青春時代をもう一度、楽しい仲間達と共に学び、遊ぶ（高橋）刺激ある授業と仲間に出会え、学ぶ楽しさを思い出す（増山）ワクワク、ルンルンの大学生活。友と呑み、語る幸せ（長尾）松山先生と素晴らしい仲間に出逢えた奇跡に感謝（三田）素敵なキャンパスで、心優しい仲間と学べる楽しさ（前島）楽しく、優しい、新しい友と学び遊ぶRSSCは最高！（相澤）4月に集まった多彩な仲間たち、思い出がいっぱいです！（稲垣）



和田ゼミ

【ゼミを振り返って】★新たな出会い、学び直し、すべて起点は和田ゼミから（伊藤）★理系頭脳の和田先生。いつも熱心な指導に感謝です（岡田）★経験や趣味はさまざま、個性豊かで穏やかな和田ゼミ（菊地）★これまた楽し修論作成に向けたゼミのプレゼン計6回（土屋）★論文苦戦、だけど和田ゼミ皆の温かさに救われました（永嶋）★興味のある課題にそれぞれが取り組み、奮闘中！（野村）★発表は苦労しますが、私には大きな刺激になります（廣瀬）★とにかく修論に真摯なゼミ。一人6回のパワポ発表（前田）★和田ゼミは自由闊達な雰囲気です（吉田）★良き先生と良きゼミ仲間に出会えた幸運に感謝！（小久江）



専攻科ゼミナール紹介



上田恵介ゼミ

【みんなのひとことゼミ紹介】個性豊かな仲間とワイルドな先生との絶妙なシンクロ世界(板

野)個性豊かなメンバーと討議、飲み会、野外活動。謳歌した(伊藤)ゼミ指導、自主ゼミ、アフターゼミと、どれも楽しかった(小野)異次元の至福のひと時、ポイント押さえた先生&ゼミ生の発言、最高！(塩谷)そやね！先生の大阪弁が醸し出す温かさと刺激的！な仲間(島田)ゼミ生の自主性を重んじ、主体性を尊重される先生でした(島村)ゆるく穏やかな空気が流れるゼミは楽しく贅沢な時間(瀧原)アットホームで居心地いいので、先生も一緒に色々出かけてます(西野)恵介先生と

ゼミ生が忌憚なく活発に意見を出し合うゼミ(富加見)恵介ゼミはいつもニコニコみんな仲良しお揃いコブウシTシャツ(武藤)自主ゼミ企画がバラエティに富んで毎回楽しみでした(渡里)

上田信ゼミ

先生の指導は行届き、自主ゼミではメンバーで野球応援、企業研究所の見学等楽しんでいます！(伊木)。R

SSCは私にとって教養と修養も学び直し学府です(胡)。皆様の面倒見の良さは専攻科随一デス！有難うございました(梅山)。ゼミの先生・仲間とのコミュニケーションが学びを楽しんでいる(大熊)。上田信ゼミは、面白いメンバーが揃っているのて飽きません(志摩)。自分のターニングポイント紹介からの幕開け、流石、歴史家上田信先生(白石)。「私達、幼なじみだった？」気の置けない仲間です(福井)。風のふくま気まの向くまま、あちらこちらへふらふらと(松木)。年を重ねてからも、新しい学びと出会いを楽しんでいます(鶴見)。皆さんオープンマインドで14期の私も不安がすぐに消えました(有居)。先生の指導の下、修論執筆に捉われずに何事にも興味を持ち、多くのことにメンバー全員で挑戦する一年でした(紀伊)。



黒木ゼミ

【私の好きな立教】異世代が行き交う鈴懸の道の喧騒と静謐な図書館の一人時間(池本雅子)12月の授業終わりの日暮時正門前に立つクリスマスツリー(石川英一)図書館3階ライフスナイダー館の見える窓席で本を読む時間(伊勢谷秀之)素敵な雰囲気のカンパスで学べ、良き仲間に出会えた(岡村真由美)四季折々の草花を愛でられる自然豊かなカンパス(勝 厚)



全学共通科目での学部生との学びの場はとても刺激的でした！(島野裕子)照明と自然光が調和した趣あふれる1号館の廊下(鈴木直美)カンパスがディープで楽しい副都心池袋にある(西野三緒子)キャロルの響きが美しい聖夜の新座カンパスが好きです(西村朋美)アイビーで食べるカツカレーは外食並みに美味しい(福地 豊)緑・鳥・赤レンガ・クリスマスツリー、都会のオアシス立教(三木 修)感謝と奉仕の心の経営者、坪野谷雅之先生に出逢えたこと(高野守通)

渡辺ゼミ

【池袋カンパスで好きな場所】☆なんと言っても、正門から見る本館とチャペル。これぞ「THE立教」☆Xmasシーズンの電飾をまとった2本のヒマラヤ杉が素敵です。☆クリスマスシーズンの正門とキャンドルを手に参加した点灯式。☆シンボルツリーに見守られた2年間に感謝！また会いに行きます。☆本館1202教室。庭の木々が見え、鳥の囀る声が聞こえ癒されます。☆学部生と"対等"に議論し、一緒に悩み笑い合う場！☆12号館入口。女性の守衛さんがいつもきちんと挨拶してくれる。☆第一食堂で、昔から

味が変わらないカツ丼を食べるのが好きです。☆図書館B1フロア。しんと静かで本に囲まれた空間。ソファに座って「ほっと一息」☆図書館は、修論の準備の場所でもあり、止まり木でもあります。☆図書館3Fの小ぶりのテラス/読書の合間の休憩やランチにも○。☆正門～時計台のある本館～一食&左右の庭&新旧図書館&鈴懸の径



イベントカレンダー

月	イ ベ ント
4	入学式 履修ガイダンス 春学期履修登録 春学期授業開始 ウエルカムパーティ
5	情報検索講習会
6	
7	納涼パーティ 春学期授業終了
8	夏季休業 夏期集中講義
9	夏期集中講義 ゼミ合同研修 秋学期履修登録 秋学期授業開始
10	立教大学ホームカミングデー
11	秋季臨時休業 秋期集中講義 専攻科入試説明会
12	公開講演会 ホリデーパーティ 冬季休業
1	修了論文提出 秋学期授業終了
2	修了者発表 課外活動
3	修了論文発表会 修了式・修了証書授与式

2024年度に開催されたイベントと、これから修了までに行われる予定のイベント※を紹介します。



★＜入学式＞

4月2日、立教大学セカンドステージ
本科生106名、専攻科生46名の入学式
が立教学院諸聖徒礼拝堂(チャペル)に
て行われました。西原学長より訓示をい
ただき喜びと期待のなか新たな一歩を
踏み出しました。



★＜ウエルカムパーティ＞

4月18日、5号館のレストランアイビー
にて、ウエルカムパーティが開催され専
攻科生の司会進行のもと受講生・教職
員が参加しました。ゼミごとのテーブル
にわかれ交流を深めました。



★＜納涼パーティ＞

納涼パーティが7月18日、レストランア
イビーにて開催され、豪華賞品をかけた
じゃんけん大会や大野先生のサックス
演奏で、暑さを忘れ大いに盛り上がりま
した。



★＜夏期集中講義＞

夏季休業期間に3日連続で全日の講
義やフィールドワークがあります。真夏
の暑いなかですが、これも貴重な体験
になります。写真は「サステナブルコミュ
ニティの思想と実践(大和田先生)」で
のフィールドワークの様子



★＜ゼミ合同研修＞

9月17日・18日に、本科は国立オリン
ピック記念青少年総合センターで、専攻
科は八ヶ岳山麓の清里高原にある清泉
寮で行われ、受講生同士の親睦を深め
る機会となりました。
写真は本科ゼミ合同研修の様子



★＜立教大学ホームカミングデー＞

第62回ホームカミングデーが10月20
日に池袋キャンパスにて盛大に開催さ
れました。RSSC同窓会による企画で2023
年度修了論文発表会、RSSC同好会・
研究活動紹介と特別講演が開催されま
した。写真は発表会の様子



★＜修了論文発表会＞

※内容は2023年度のものです
2023年度修了論文発表会が、3月7日、
8日の2日間にわたって行われました。
各ゼミからの代表28名が、10か月かけて取
り組んできた修了論文について報告し、
会場からは活発に質疑もありました。

立教大学 池袋キャンパスマップ

私たちが立教大学の学生さんとともに学んでいる、都会の中に歴史を感じさせ、赤レンガ造りの建物が立ち並ぶ、緑豊かで美しい池袋キャンパスをご紹介します。

池袋図書館



写真提供 立教大学広報課

2012年に開館した地下2階から地上3階までの池袋図書館。収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1634席を有する、国内の大学でも屈指の大規模図書館を利用することができます。

旧江戸川乱歩邸



推理小説家の江戸川乱歩が1934年から移り住んだ邸宅と、書庫として使われていた土蔵が、2002年に立教大学へ譲渡されました。現在は改修整備工事中です。

セントポールプラザ



1階はコンビニがあり、2階は文具・書籍等を販売しています。受講生証を提示すると、文具は20%引き、書籍・雑誌は10%引きで購入することができます。

正門ヒマラヤ杉（クリスマスツリー）



正門を入ったところにそびえる2本のヒマラヤ杉の大木。12月は華やかなイルミネーションが施されたクリスマスツリーとなり、キャンパスはクリスマス色に染まります。

セントポールズ会館（日比谷松本楼）



主として立教大学の卒業生のための施設ですが、レストラン日比谷松本楼の支店があり、ちょっと贅沢なランチや、ゼミの懇親会等で利用できます。

鈴懸の径・長嶋茂雄氏顕彰モニュメント



4号館と10号館の間、東西に続くスズカケ（プラタナス）の並木道です。2024年には立教学院創立150周年を記念して、長嶋茂雄氏顕彰モニュメントが設置されました。

4つの学生食堂



①第一食堂



②レストランアイビー

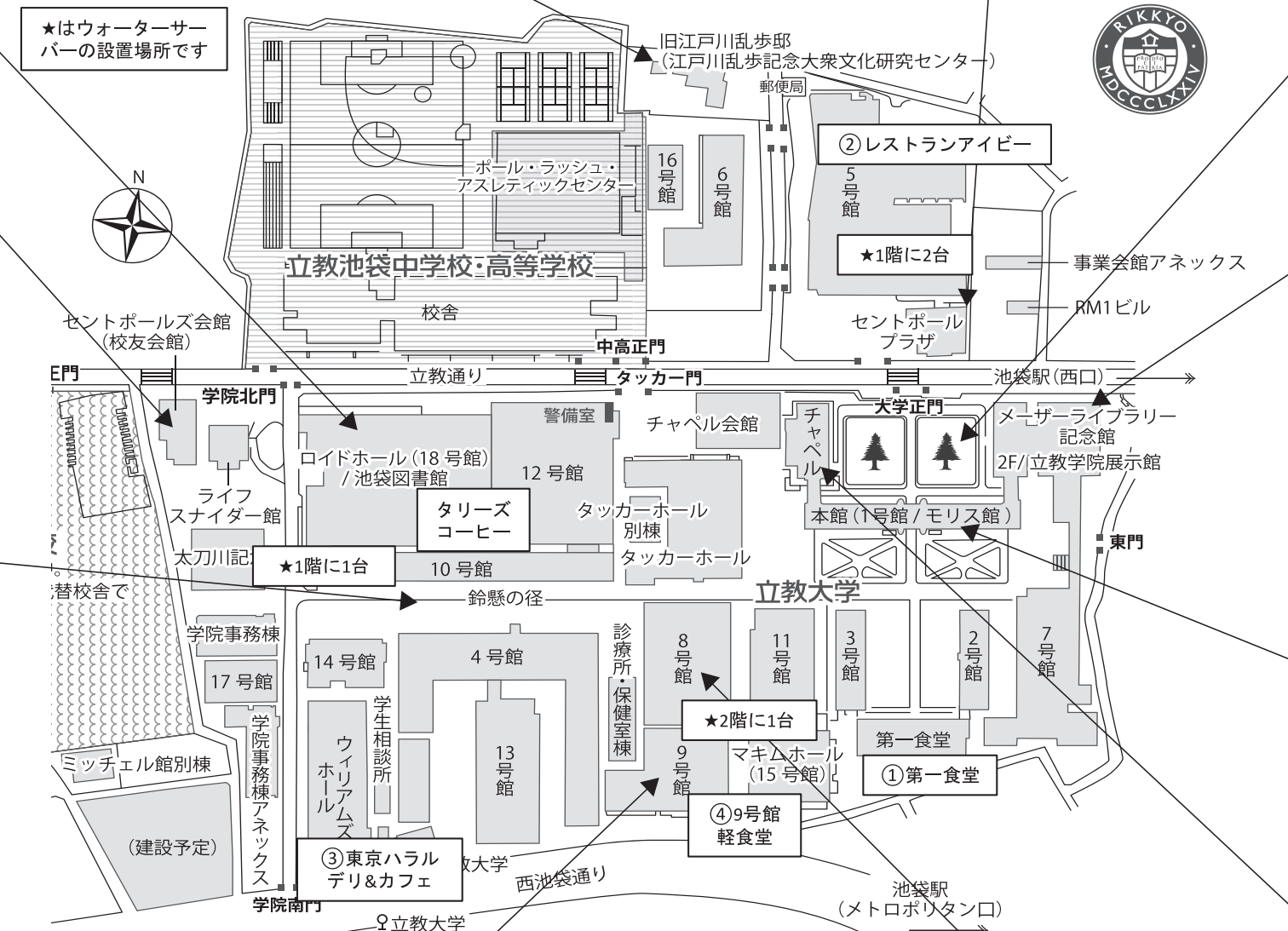


③東京ハラルデリ&カフェ



④9号館軽食堂

キャンパス内の食堂は、まるでイギリスの寄宿舎のようなクラシカルな雰囲気がある第一食堂や、5号館地下にあって夜はウェルカムパーティ等を行ったレストランアイビー、ウィリアムズホール2階にあり、店内で焼き上げたナンやカレーが食べられる東京ハラルデリ&カフェ、9号館1階に軽食堂があります。



受講生ラウンジ・事務室（9号館1階）



ラウンジは授業の合間に受講生同士で語ったり、憩いの場として活用することができます。また共有PCを利用したり、会議スペースで委員会活動等の打ち合わせに利用することもできます。

メディアセンター（8号館4階）



授業や個人学習で利用するPCやインターネット等の情報環境の提供と利用者の支援を行っているメディアセンター。入学式の後にガイダンスを行っていただきました。

立教学院諸聖徒礼拝堂（チャペル）



1年を通じてさまざまな礼拝が行われているチャペル。セカンドステージ大学の入学式もこの歴史あるチャペルで行われ、パイプオルガンの伴奏で聖歌と校歌を斉唱しました。

特別企画 座談会

「RSSC生のキャンパスライフ。ここが楽しい」

立教セカンドステージ大学（以下RSSC）ってどんなところ？

2年目を迎える専攻科生と今年度入学した本科生による本音の座談会を開催しました。（敬称略）

——まず初めに入学の動機をお話いただければと思います。

高山 たまたま豊島区の生涯学習で法学部の野澤先生の講義を聞く機会がございました。それがとっても親しみやすくて、その1ヶ月後ぐらいに立教のRSSC説明会があって参加しました。キャンパスツアーで見せていただいた校内の様子、雰囲気とか、その辺が入学の動機にだんだん寄せられていったところなんです。

吉川 勤務が一段落した時期にまとまった形で時間をとって、ここで一度自分自身を充電して、これからの人生をさらにパワーアップして歩んでいきたいなと思って入学しました。

池本 RSSCのパンフレットを10年くらい前に見る機会があって、老後の楽しみというか、退職したら行ってみたいなと思っていました。入ってみたら、ちょっと想像以上に楽しくて、1年で辞めるつもりが、2年になってしまった次第です。



専攻科生 池本 雅子
新卒で教職に就いたが、夫の転勤によって専業主婦に。
その間大学で資格を取り15年後に復職。

——入学して感じられたことは。

高山 まず、同期の皆さんの人間性とか、今まで培ってきたスキルとか本当に豊かだと驚かされて、そこから刺激を受けています。私もこうありたいなみたいなことを今更ながら思わせる方々がすごく多くて、本当に来てよかったってことです。ゼミのクラス以外の人たちの輪ってというか、その広がりも人が人を呼んでくださって多くの人からいろんなお話を聞ける。考えとか、趣味とか個人的なことにも入っていけて、今それを楽しんでいる最中です。授業は先生によっては厳しいですし、ちょっとおまけしてくださる先生もいらっしゃるってところもだんだんつかめてきたかなと。



本科生 吉川 一弘
この夏まで信用金庫勤務。日本百名山完登。東京マラソンは3回完走、ボランティアとしても参加している。

吉川 皆さんとのそういう交流もすごく刺激的で、学生時代は目標定まらないままに何となく4年間過ぎちゃった部分がありましたが、今は極端な話をすれば明日死んじゃうかもしれない、毎日本当に充実したものにしないといけないと思うと体が自然に動いてしまいます。

池本 入学して大学の講義の受け方が昔と違うことにまず驚きました。今の若い学生がパソコンを持ち込み、授業を聞きながら授業のスライドと自分のノートとを2画面にして、同時進行にやってるので、今時の子ってすごいなと思って。私語とか多少ありますけどすごく真摯に取り組んでいて、図書館もいっぱい。学生さん一生懸命学んでいる。

——RSSCでは行事や委員会活動も盛んですね。

高山 合同合宿は最高でしたね。本当によくプログラムを組んでいただいて、ミニ運動会とか無邪気に、本心が出たという。「はやぶさ2」の津田先生の講演（注）も素晴らしい企画だった。このゼミ合宿を企画された委員会の方はさぞ大変だったろうに、ニコニコ運営してくださった。

吉川 合同合宿の中で、興味があること別にグループに分かれて交流する時間があって、そこでも会話が弾みました。私は山好き集まれのグループに入ったのですが、それで「低山会」ができましたね。

池本 専攻科の1人としてゼミ合宿のことも言わないと。清泉寮に行きました。入学したばかりの本科の時はいくじとかで受身的に委員になったと思う方が、2年目の

注：講演「はやぶさ2物語」

講師 津田雄一 JAXA宇宙科学研究所教授

専攻科になるともうなんかゼミが始まる前からこの委員会に入ろうみたいな気持ちで決めている感じもありました。特に合宿委員っていうのは本当に意欲あふれる人たちが集まっている感じでしたね。夜流したスライドの企画や編集、チラシ制作や会計、議事録に至るまでそれぞれ得意な方がいらして素晴らしい出来栄えだったと思っています。

——清泉寮は自然の豊かなところと聞いておりますが。

池本 コテージと本館とありまして、私はコテージに泊まったのですが広々としていて、男性陣は一つのコテージに集まって遅くまで宴会。八ヶ岳という自然を生かしたプログラムで朝野鳥を観察したり夜は星空のお話もありました。喧噪がないし、ぜひいらしてください。

吉川 ある意味清里のシンボリック施設ですね。

——修了論文については、本科生が非常に気にしているところですが。

池本 私は結構力を入れてやったので長くなっちゃって、去年3万字超えちゃったんです。今年の目標を2万字以内で書くことにしたい。学術論文ではないと思うので、気楽に書いていいんじゃないかなって。気合を入れすぎると書けなくなっちゃう。

高山 最初はテーマで眠れないぐらい悩んでそれを越してよしこれでやろうと思ったら、なんか楽しくなって。探したい論文に行き当たってきて、また楽しくなっちゃって。今多分9割ぐらいは書けてるんですけど、やっぱり削れない。勿体なくて捨てられないみたいな。

池本 捨てるっていうのが大事。調べたことを全部書きたくなるけど。

高山 落ち着いたら来月ぐらい辺りで削っていけたらいいかなって。ちょっと着地点が見えてきたので。

——皆さん、論文のテーマは何ですか。

高山 アドバンスケアプランニング。人生の最終段階までどう生きるか、これは本来どういう意味なのかとか。

吉川 私のテーマは日本百名山について。日本百名山が日本社会に何をもたらしたかっていうイメージ。思いつくままに比較的軽い気持ちで今打ってるんですけども、最後まで行き着いた時点で全体を見渡そうと思います。

池本 去年は自分の故郷の隠れキリシタンにしました。

——授業以外の活動も活発ですね。

吉川 合宿きっかけで始まった「低山会」の活動をしています。これから行くとすれば、おススメは高尾山かな。新宿から1時間足らずであれだけの雰囲気味わえる。いろんなルートがあるし。

高山 リフトもありますね。

吉川 軽めのもできますし、それでは物足りないなというのであれば、高尾山からもうちょっとその先の景信山だとか陣馬山だとかにも行ける。

高山 仕事をしてる時は趣味どころではありませんでした。ですので、今は積極的にいろんなものに参加しています。

吉川 時間が自由に使える部分がありますので、平日で授業のない日は孫の保育園の送り迎えとか趣味のランニ



本科生 高山 まつえ
66歳まで働き、転職も経験している。
他校も検討したがRSSCに入学。一人で伝統芸能を鑑賞するのも大好き。

ング、登山。東京マラソンをサポートするボランティア活動とか。

高山 ゼミを超えた繋がりっていうのができてまして、ナイトクルーズに行ったり、東京六大学の野球を観に行きましょと計画したりしてます。

池本 ちょっとしたきっかけでLINEグループができて、それでお誘いがあったら出かけるっていう感じです。LINEをフル活用してますね。

——これまで学ばれて感じられることは。

池本 いろんなことをテーマにしている人が一緒になって学ぶのがリベラルアーツなんだっていうことをゼミの皆さんや担当の先生との交流で実感しますね。

吉川 そうですね。若い頃に比べて先生との距離感が違いますね。当時は、自分自身によりどころもないし、確固たる基盤もないし、先生は先生、目上の人っていう感じでした。今でも先生は教えていただく方っていう部分はもちろんありますけれども、私は私なりに社会を歩んできて、申し上げるところは申し上げるといふか、そういう部分はあるかなというふうに思います。お互いに尊重しながらですね。

高山 私の方が年上だったりする先生方も多いのですが、私たちに対するリスペクト感っていうのをすごく感じるんですね。人生経験を積んできて、私たちも少々図々しくなっているかもしれませんが、先生とはとってもいい関係性を持っていると思います。

——本日はどうもありがとうございました。

(2024年10月17日実施)



ネクストステージ 修了生と専攻科生にインタビューしました

RSSCを修了された元RSSC生と現役の専攻科生の皆さんにインタビューしました。共通質問に加えて、ご自身の「次のステージ」をテーマに語っていただきました。

共通質問：①入学の理由、②入学を決めたときの周囲の反応、③現在または以前の職業、④今後の計画、⑤後輩の受講生や入学を検討している人へのメッセージ。

大谷文敏さん（14期生 2022年度専攻科修了）

①リベラルアーツに関心を持っていたため。さらに入学案内を見ると、かつて放送大学で教わったことがある平賀先生や中学時代の1年先輩である鉢村先生をお見かけし親しみを感じたため ②前向きに応援してくれました ③不動産賃貸業 ④早朝の映画上映を計画しています ⑤これからの人生をともに歩む仲間や恩師、学問に出会う機会になります

映画鑑賞が趣味で、芳賀和恵先生の夏期集中講義で、RSSC修了後の抱負として、「映画館を開業したい」と話したことから、NCWという映画学校で映画産業や劇場経営、映画宣伝などを半年間学びました。クラスメートの大多数の20歳代の若者に交じって、ただ一人60歳超の私が一緒に学ぶことができたこともRSSCの特徴の一つの「異世代共学」のおかげであると感謝しています。映画学校仲間とともに「ベルリン国際映画祭前夜祭プロジェクト」と題した1日限りのイベント（2024年2月開催）のチラシ配布など、宣伝活動を手伝ったことは良い思い出となっています。この経験をもとに、私が好きな古き良き映画や社会派映画の定期上映活動を計画中です。



鈴木聡子さん（16期生 2023年度本科修了）

①小谷みどり先生の著書を拝読して ②いいね！と背中を押してくれました ③自営業（駄菓子屋） ④開業したばかりの駄菓子屋を楽しい場所にしていきたい ⑤今までに経験できなかったことを学べ、知識・世界が広がります！

仕事を退職した時期に夫を亡くし、喪失感と不安でいっぱいだったときにRSSCの存在を知りました。RSSCの理念である「学び直し」「再チャレンジ」の言葉に前を向けるようになるかもと期待し、入学を決めました。RSSCはどの講義も興味深く面白いものでした。さらに、出会った仲間たちから刺激を受け、まさに学び直し、再チャレンジする力をもらいました。修了論文は「現代の子どもに必要な居場所とは」というテーマで研究しました。この学びを生かし、修了後すぐに駄菓子屋を開き、新しい生活を始めています。自分自身が楽しみながら、子どもが豊かに育つ地域作りの一端として駄菓子屋を続けたいと思っています。



島田佳久さん（16期生 2023年度本科修了）

①定年退職後、人生後半を生きるに当たり、自分の知識不足を補う勉強がしたかった。学生時代はずっと野球部だったので、普通の学生生活を送ってみたかったため ②「今から何がしたいの？」 ③スポーツメーカー ④大学院修了後は、ランニングや健康運動指導で健康社会へ還元したい ⑤世代を超えて若い学生と同じ空間で学べます

自分自身を振り返る意味もあり「セカンドステージ世代のスポーツ」をテーマにして修了論文を書きました。大野先生、ゼミ仲間のアドバイスもあり、楽しく書くことができました。そして、このテーマをより深掘りしようと考え、大学院へ進学しました。シニアランナーの健康が保たれ、楽しくランニングを継続するにはどのような思考、方法論が良いかの問いに向かい合い研究しています。「自由の学府・立教」の一員として、スポーツから明るい未来の社会をつくれるように、前へ進んでいきたいと思っています。今後は今までの経験とスキル、再度の学びと研究で得た知見をもとに健康社会へ還元するランニング指導や健康運動指導を続けたいと思っています。



萩原泰子さん（16期生 専攻科在籍中）

①立教池袋キャンパスにずっと憧れていたため。新しいことを学びたいと思ったため ②合格後報告でも、賛成してくれました ③作業療法士（リハビリ職） ④休止中のボランティア活動、健康麻雀等のサークル活動、仕事 ⑤一歩踏み出したら面白い世界が広がっています！



知らないことを知ることが大好きで、社会人になってから、夜間の大学や専門学校に通いました。また、私は何を学ぶかよりもどこで学ぶかが重要で、素敵な立教池袋キャンパスで学べることは魅力的でした。以前大病した際、アントニオ猪木の「元気があれば何でもできる！」という言葉に励まされ、元気になったら、興味のあることはとにかくやってみようと、即行動に移すようにしています。RSSCでも同じ科目履修の方に積極的に話しかけ、健康麻雀、合唱、落語鑑賞等を一緒にする良き仲間と出会えたことが大きな収穫です。コロナ禍で閉塞的な生活を強いられていたときに一歩踏み出したおかげで、自分自身大いにリフレッシュができ、家族にも優しく接せられるようになりました。

渡里順子さん（16期生 専攻科在籍中）

①学び直しをするのに、学部生の考え方に触れられると思ったため ②夫「へえ、そうなの」子供、母「すばらしい、がんばって！」 ③アルバイト ④グリーフケア研究 ⑤人とのかかわりの中で、やりたいことが見えてくることも。悩んだら行動を！



コロナ禍に時間ができたことで、10年間たずさわった仕事を振り返りました。ちょうどそのころ学び直しのことを知り、私の人生の残りの時間の使い方を考えました。やりたい学び直しは東京の3大学にあることが分かり、当時住んでいた広島からあとさき考えずに上京しました。すばらしい先生とゼミの皆さまの指導のもと、フィールドワークや他大学を訪ねたりして論文を書けたのは大きな収穫です。授業を受けてみて、さらに学びたい情熱が大きくなり、専攻科に進みました。行動を起こした自分は偉かったと思います。

三木修さん（16期生 専攻科在籍中）

①会社員一筋でこれまでの人生を過ごしてきたため、仕事以外のことを知らないの、会社以外のことを学びたかったため。一年早く早期退職をして早稲田ライフ・リデザイン・カレッジを一年受講したが、再度深く学びたくなったため ②驚いていたが、学び直しに理解してくれました ③損害保険会社 ④町内会活動や豊島区の地域貢献活動を行っていきたい ⑤楽しく学び友達を作る！



私は、退職後10年間は勉強を続けていきたいと考えています。人とつき合うことが好きなので、色々な人と知り合い見識を深めたいと思い、RSSCではプラチナコミュニティ研究会に入り、現在、副代表をしています。地域貢献の町内会活動としては、昭和の時代のような地元の助け合い組織を作り、生活しやすい環境を作りたい。授業のフィールドワークで地方の活動を学んだので、豊島区の地域活性の協力も行いたいと思っています。入学を考えている方には楽しく学び、友だちを作ることを勧めます。まず入学し、色々なサークルに参加して人とのつながりを縦横に作り、知らない世界を楽しく学んでほしいと思います。

RSSC生が語る「図書館のここが好き！」

受講生なら日常的に利用する図書館。みんなはどんなところが気に入っているのでしょうか。

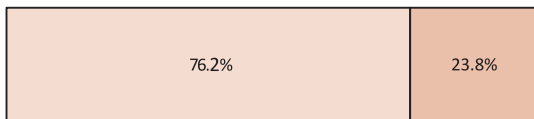
池袋図書館 PCが完備されている / 昼寝場所として、地下一階中央にソファがあります。ただし横になると怒られます / 図書館なのに話せるスペースがある / 図書館なのに飲みものや軽食をとるスペースがある / 吹き抜けの高い天井が開放的 / パーティションで区切られたビデオコーナーが落ち着ける / カウンターの職員さんが親切
新座図書館 1つのフロアに本が分類して集められているので必要な本を探しやすく使い勝手が良い / 光あふれた空間は開放感がある / 広い空間に対していつも人が少なく、図書館らしい雰囲気のなかで集中してレポートが作成できる / 現代心理学部があるので、心理学・映像身体学関係の資料が充実 / DVDの多さに感動しますよ！

アンケート：本科生に聞きました

2024年4月入学の本科生に対して、春学期終了後の10月にGoogle フォームでのオンラインアンケートを実施（回答率78%）

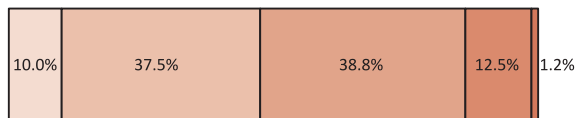
現在の仕事の有無

□していない □している



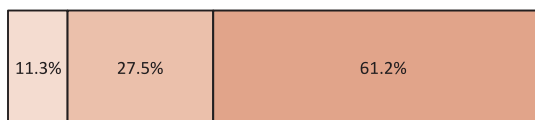
通学時間

□30分未満 □30分～1時間未満 □1～1.5時間未満 □1.5～2時間未満 □2時間以上

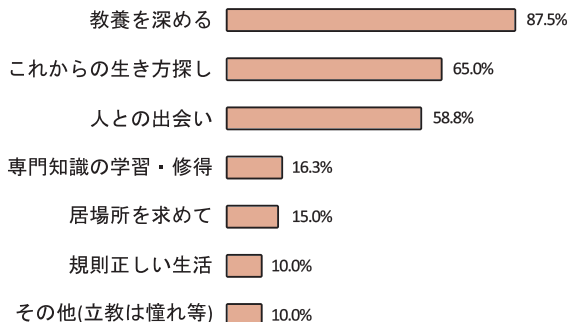


春学期での1週間の受講科目数

□2～4科目 □5～7科目 □8科目以上

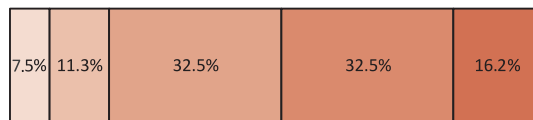


入学の動機（複数回答可）



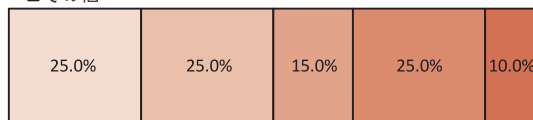
年齢

□50～54歳 □55～59歳 □60～64歳 □65～69歳 □70歳以上



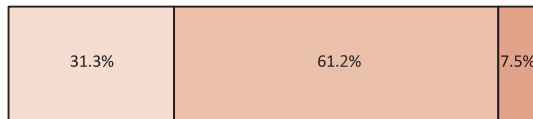
現在の職業（仕事をしている人に聞きました）

□会社員・団体職員 □会社役員・団体役員 □パート・アルバイト勤務 □自営業 □その他



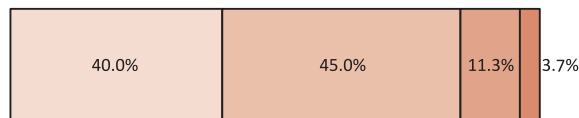
春学期での1週間の通学日数

□1～2日 □3～4日 □5～6日

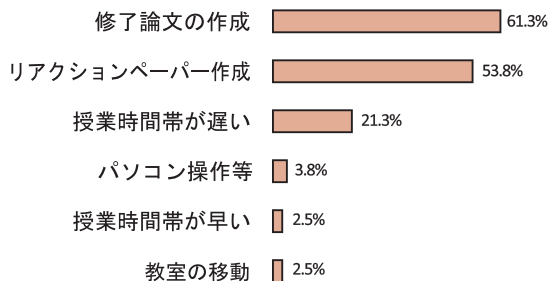


授業の満足度

□大変満足だった □やや満足だった □どちらでもない □やや不満足だった



授業で苦労したこと（複数回答可）



フリーコメント（抜粋）

【仕事との両立】

○レポート作成など時間的やりくりは大変。退職後に専攻科に入って、思う存分学びたい。

【全学共通科目】

○ディスカッションで学部生の意見が聞けて有意義。
○履修できる科目の拡大と履修科目数上限の緩和を希望。
○RSSC生の受講可能人数をもっと増やしてほしい。

【学部生との交流】

○学部ゼミにコメンテータで参加。貴重な経験だった。
○学部生や留学生と交流できる機会がもっと欲しい。

【修了論文】

○論文を書く機会をもてたことは収穫。
○学術論文形式にこだわらず、自由な形式（趣味や人生経験についてのエッセイ等）でもいいのでは？と思った。
○テーマ設定は各人色々なので、論文の内容について同ゼミ生同士で深く話合いできるまでには至らず。

【本科修了にあたって】

○満足感いっぱいのキャンパスライフ。1～2年間で終わるのが残念。
○修了後は何をやるかを見つけれられていない。OBのやっているNPO活動等にアプローチをしなくては。

<編集後記>

自己紹介から始まった委員会は、懇親会も行い、なんでも議論できるチームになりました。議論の未決定した編集方針の「見やすさと分かりやすさ」が読者の皆様に伝われば幸いです。

堀先生はじめ関係先の皆様のご協力に感謝します。

（紀伊）

【委員】

（本 科） 浅野一乃、稲垣憲太郎、岩瀬高広、小久江純、清水次郎、高瀬真一、多羅尾智子、千葉勝吾、原山亜純、福井美智子
（専 攻 科） 秋間辰巳、伊勢谷秀之、紀伊壽昭、瀧原智恵子
（担当教員） 堀耕治